

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100311		
法人名	株式会社九州ケアサービス		
事業所名	グループホーム田野あやか園		
所在地	宮崎市田野町乙10125番地9		
自己評価作成日	平成25年10月22日	評価結果市町村受理日	平成25年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=4590100311-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田野町の自然が多い環境の中で「ゆっくり、のんびり、一緒に楽しむ」を考え、利用される方たちと一緒にゆっくりとした時間が過ごせるように、環境等を活かした介護をしています。利用者のかかりつけ医とも常に報告・連絡・相談をして、連携をすることで医療面での不安を少しでも軽くして、あやか園での生活を豊かに出来るように、日々支援をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の職員交代が続く中で、拘束をしないケアとして、往来に面した門扉や玄関の開錠に年々段階的に取り組み、現在は両方とも昼間開錠して、誰でも自由に出入り出来るようにしている。利用者が安全に生活出来るようにと、防災訓練の協力依頼に、自作のチラシを持って地域を個別訪問し、地域交流にも努めている。また、居室の調度品の配置にも常々留意し、減災害につなげている。食事を楽しめるように、硬い食材を食感を損なわないようにミキサー操作を多様に工夫している。職員は、自身がゆとりを持って生き生きと暮らすことが、利用者の笑顔につながるとして、体調管理に留意し、自分達の親と重ねながら介護している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示しているが、職員全員が理解していない部分があり、再度確認が必要である。	管理者と職員は、具体的なケアにつなぐ自分達の理念にしたいと、前年から見直しに取り組んでいるが、職員の交代もあり、現在も継続中である。	自分達のケアの原点となる理念の見直しを、全職員で早期に達成され、より一層地域に根差したサービスの実践となるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも入っており、行事を通じての交流(消防訓練・誕生会ボランティア等)ができるようになってきている。	自治会と地域との交流は年々強まってきている。今後は、ホーム行事などの参加を更に増やしたいと、地域へ働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が出来ていても、認知症そのものに対する理解は進んでいない(例:認知症を今もボケ・痴呆と呼ぶ人たちがいる)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行っており、グループホーム内の報告等を行って、委員からの意見を聞いている。	外部評価後、運営推進会議に行政の参加を働きかけたが、参加は得られず、働きかけを続けている。会議では、運営状況も開示し、地域の中のホームとしての助言を得たり、地域交流や防災などの理解・協力にもつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宮崎市役所介護保険課計画指導係担当者および、総合支所福祉課職員と普段からのやり取り、必要時の相談を行っている。	市の担当者とは、日常的に、電話や月1回は出向いて運営状況の報告や相談をしたり、情報を得るなど、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けての取り組みは、普段の研修会にも取り入れており、全員に意識が浸透していると思う。	管理者と職員は、身体拘束をしないケアを理解し、利用者を尊重したケアを実践している。早朝でも利用者の外出にゆったりとつきあっている。また、県道に面した門扉と網戸にした玄関を日中は開錠し見守り、夕方に閉めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、身体拘束についての研修会時に、同時に学ぶ時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のリーフレットは玄関にも置いて、目が通せるようにしているものの、権利擁護事業同様、制度の内容等への理解は進んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明、加算・変更等の説明は、電話および請求書送付の際に手紙を入れるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員・管理者共に、家族面会等で意見や要望を引き出す機会を作っており、内容によっては運営推進会議等にかけている。	利用者や家族などが、要望や苦情を出しやすいように、日ごろからコミュニケーションに努め、意向などを職員間で共有し、運営に反映させている。入浴を夜にしてほしいとの要望に、対応できる体制がとれないか検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	園内ミーティングおよび、法人の管理者が集まる会議に意見交換の時間を作って、コミュニケーションが取れるように工夫している。	管理者は、介護行為を職員と共に行うことで、職員が意見や提案を具体的に出しやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得状況に応じ、社内規定に基づいて基本給の向上や時間外労働手当の徹底。年次有給休暇取得推進をして、職員の労働意欲が引き出せるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内・外問わず、研修機会を設けて参加を推進している。時にはOJT等の研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田野町でもケアマネ会及び、全体研修会や懇親会の機会を確保。参加をして、他事業所との交流機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも、体験入居や訪問・見学等を随時行っており、利用者が出来るだけスムーズに入居・利用ができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等で、利用者及び家族が抱える不安等をできるだけ聞き取り、困りごとを解決するだけでなく、自立支援を目指せるような支援を行っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に聞き取りした内容に応じて、他事業所を適切に利用できる状況であれば、その選択肢も含めて対応している、		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人を共に生活をしていく人として接し、コミュニケーションや活動を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて手紙や電話などで、随時連絡を行って、本人との関係が希薄にならないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会頻度の少ない方には、電話を掛けるなどの対応をしているが、こちらから出かけるのを支援するなどには十分にできていない。	利用者の友人やなじみの人も高齢になり、働きかけをしても交流がなくなってきた。日常的に電話をかけた、なじみの神社参りをしたりして、利用者のなじみの人や場の関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が円滑にコミュニケーションできるように支援している。また、トラブル時には仲裁に入るなど、関係悪化に繋がらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、連絡を出来る限り取るようにして、その後の状況を確認。相談等に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの意見や要望があれば、それらを基に家族・職員とも話し合い、出来るだけその思いや意向が実現できるようにしている。	利用者との日常の会話や動作から、思いや意向を把握したことを記録し、職員間で共有して、思いや意向の実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	気づきシートやアセスメントシートも活用して、今までの生活歴を利用者本人や家族から情報を集めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に加え、アセスメントを行いながら、利用者の状態把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族に意向や希望の把握。職員間でアセスメント及びミニカンファレンスを行って、出来るだけ多くの人間が介護計画にかかわれるようにしている。	前回の外部評価後、ケアに対しての利用者の日々の反応を具体的に記録するようにすることで、利用者のできる部分が把握できるようになり、現状に即した介護計画作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来るだけ判で押したような記録にならないよう、本人の状態、職員の気づきを記入できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、臨機応変に対応している。訴えがあれば一緒に外に散歩に行くなど。		

宮崎県宮崎市田野町 グループホーム田野あやか園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等への参加はまだ少ないが、近隣の方との挨拶等は必ず行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の殆どは、訪問診療に来られる病院がかかりつけである為、適宜報告・連絡・相談を行って、異状の早期発見と対応を行っている。	夜間でも対応してほしいとの本人や家族の要望で、訪問診療が主である。受診時には、必要な情報の提供をしたり、また、緊急時にも適切な医療を受けられるよう、医療機関や関係機関と連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、あやか園に看護師は配置されていないが、かかりつけの看護職と連携して、適切な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院直後より、関係者と連携を取って看護計画の把握や入院中の経過を随時取るようにしている。退院時には、看護サマリーを職員で情報共有できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が入居する際には、当初より重度化した場合の対応などをあらかじめ聞いておき、重度化した際には、再度ターミナルケアを行うか等話し合っており、確認するようにしている。	重度化や終末期の対応については、ホームでの看取りを行ったことも含めて、全職員で方針を共有している。利用開始時の説明以降、家族の思いの変化を受け止めながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署の出前講座等を受けるなどして、急変時の対応が適切に行えるようにしている。また、急変時の連絡先や対応等を居室と事務所に配置して、確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害については指針を用意はしているものの、実際の訓練は行っていない。火災事故等に対する安全対策は対応済み。尚、非常食の常備等を行っている。	住民や運営推進会議のメンバー、消防署の協力を得て、夜間想定防火訓練を行っている。避難路確保のために、掃き出し戸の設置や障害物を置かないなど、日常的に配慮している。食料や水、ガスコンロ、衛生品なども備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他利用者がいる前での排泄の有無などを訊いてしまう等、プライバシーの保護が徹底しているとは言えない場面もあるが、トイレ誘導時に扉を閉める等、少しずつ改善している。	管理者は、親しさの中にも一人ひとりの人格を尊重するように職員を教育している。職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で、やりたいことを選んでもらうように選択肢をいくつか出すなどの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだまだ業務優先のスケジュールもあるが、以前に比べて利用者が自分のペースで生活が出来るように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ～更衣動作時は、本人に出来るだけ洋服を選んでもらうようにしている。日常の整髪等も本人に声掛けして、できるだけ自分で行うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・後片付け等は、声掛けして行ってもらっているが、食事を一緒に食べることは全員では出来ていない。	硬い食材は食感を損なわないように、食材ごとにミキサー操作を多様に工夫して、味わいよく、また、彩りにも配慮し、時には外食したり、食事が楽しめるように工夫している。管理者は、受診で昼食が遅くなる利用者につきあいで一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	固めの食べ物が残差物として残る方達には、刻み食やミキサー食の提供をしている。また、利用者の好みに応じて鶏肉から豚肉への変更等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時に必ずケアを行い、ブラッシング等のチェックをしている。また、訪問歯科診療を取り入れ、歯科医師によるチェックも行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンの把握のために、排泄チェック表を活用しているが、把握不十分な部分があるものの、以前よりも尿取りの使用頻度を減らせるようにしている。	一人ひとりのチェック表をつけている。家族からの要望でおむつやパットの性質を研究し、使用を減らす工夫をしているが、気持ちよく排せつする自立支援には至っていない。	一人ひとりの自立を促進するような、利用者本位の排せつ支援となるよう期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分を多くとる。便秘になりにくいものを食べるなど、下剤に出来るだけ頼らない工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週3回であるが、希望時は希望浴対応が出来るようにしている。	冬至にはゆず湯にしたり、入浴剤で気分を変えたり、同性介助をするなど、入浴を楽しめる工夫をしている。入浴を拒否される方には、その方に合わせた声かけや散歩の後に入浴するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則として、就寝時間は利用者を選んでいただくようにしている。また、利用者の体調を考慮して、日中でも居室で休んでもらうなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師と連携を取りながら、出来るだけ利用者も用法・用量を把握できるようにしている。管理は職員が行っているが、服薬は利用者と確認して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の殆どは何かしら役割を持ち、その手伝いを行ってもらっている。嗜好品等の持ち込みも医師と相談しながら病気に影響がない範囲で可能である(お酒など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとの行事等で、外出できるように支援をしているが、利用者の毎日園外への散歩等はなかなか来ていない。買い物等の支援は出来るだけ行うようにしている。	業務優先の時もあるが、出たい時には寄り添って散歩したり、買い物などで日常的に戸外に出るよう支援している。時には、外食や足湯など遠出もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者のみだが、少額のお金を持たれており、利用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話をかけるのは殆どないが、希望があれば、電話をするなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花やタペストリーを飾って、季節感を感じられるように配慮を行っている	共用空間は、採光や音量、換気などに配慮がなされ、地元の方の絵や花で、季節感を出すなど、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースに日中は利用者の方たちが集まって、談話が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家財道具を持ち込んでもらっている(利用者全員ではないが)。また、ベッドの配置等、事故を予防するように配慮している。	利用者が自宅で使っていたなじみの物を持ち込んだり、ベッドの向きは利用者の好みで、窓か壁に沿う位置にするなど、居心地良く過ごせるように支援している。歩行不安定な利用者には、いすの配置など、夜間の安全面の配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分な配慮を行っているが、リスク管理を重要視するあまり、利用者の行動制限をしないように気を付けている。		